

第6次 栗山町障がい者基本計画 (令和6年度～令和11年度)

～共に生きる地域社会づくりを目指して～

概要版



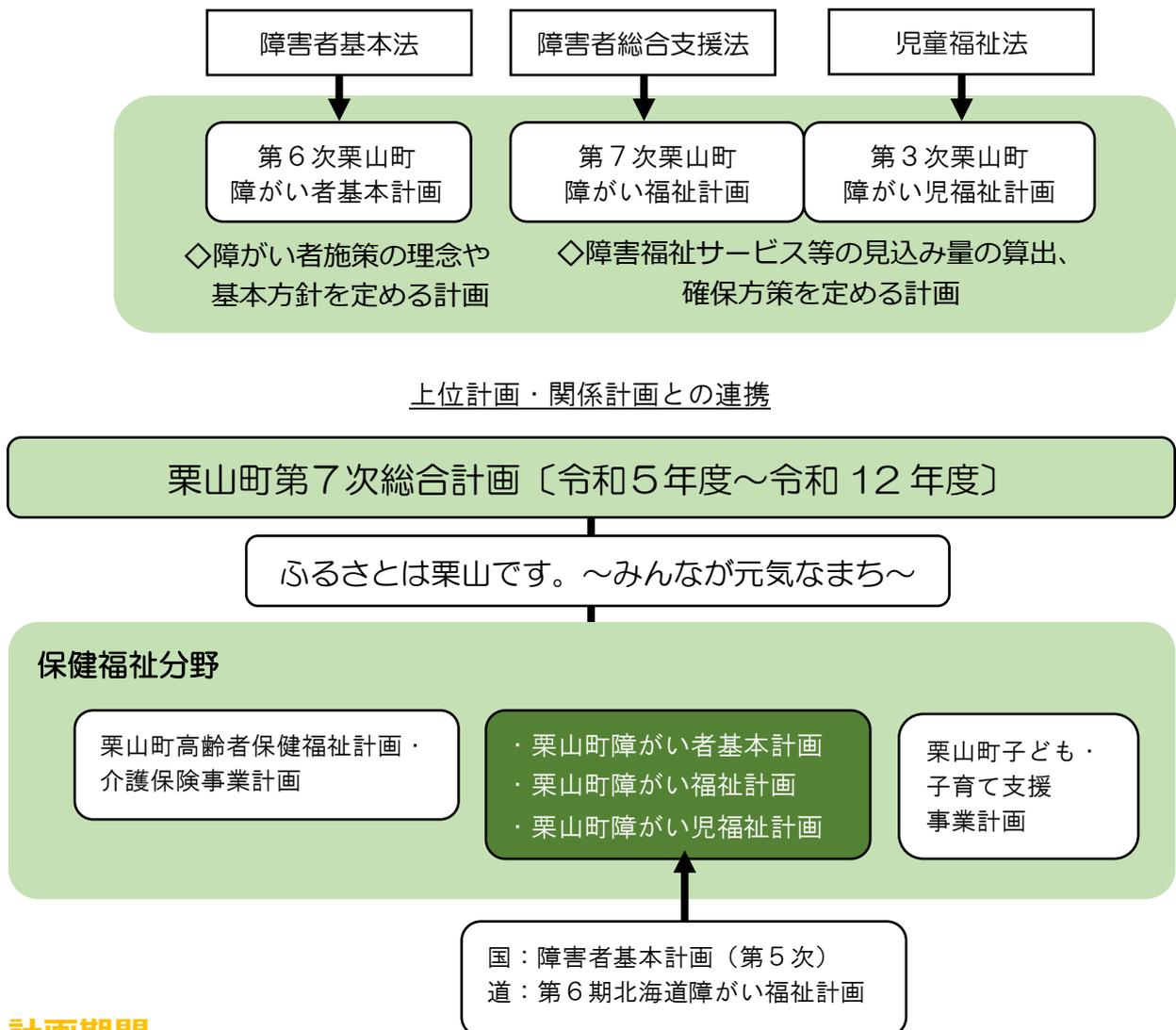
令和6年3月
栗山町

1 計画の位置づけと計画期間

この計画は、障がいのある方が、住み慣れた地域で安心と生きがいをもって暮らすことのできる“共に生きる”地域社会づくりを目指し、自立した地域生活の支援や、就労支援を含めた社会参加機会の充実、権利擁護の推進など、「北海道障がい者条例」等に基づく本町の障がい者福祉施策の展開を明らかにするとともに、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(通称:障害者総合支援法)」及び「児童福祉法」に基づく各福祉サービスの提供体制の確保・充実を図るために策定するものです。

計画の位置づけ

「栗山町第6次障がい者基本計画・第7次障がい福祉計画・第3次障がい児福祉計画」は、障害者基本法第11条第3項に定められる障害者基本計画、障害者総合支援法第88条に定められる障害福祉計画、児童福祉法第33条の20に定められる障害児福祉計画で構成される法定計画です。



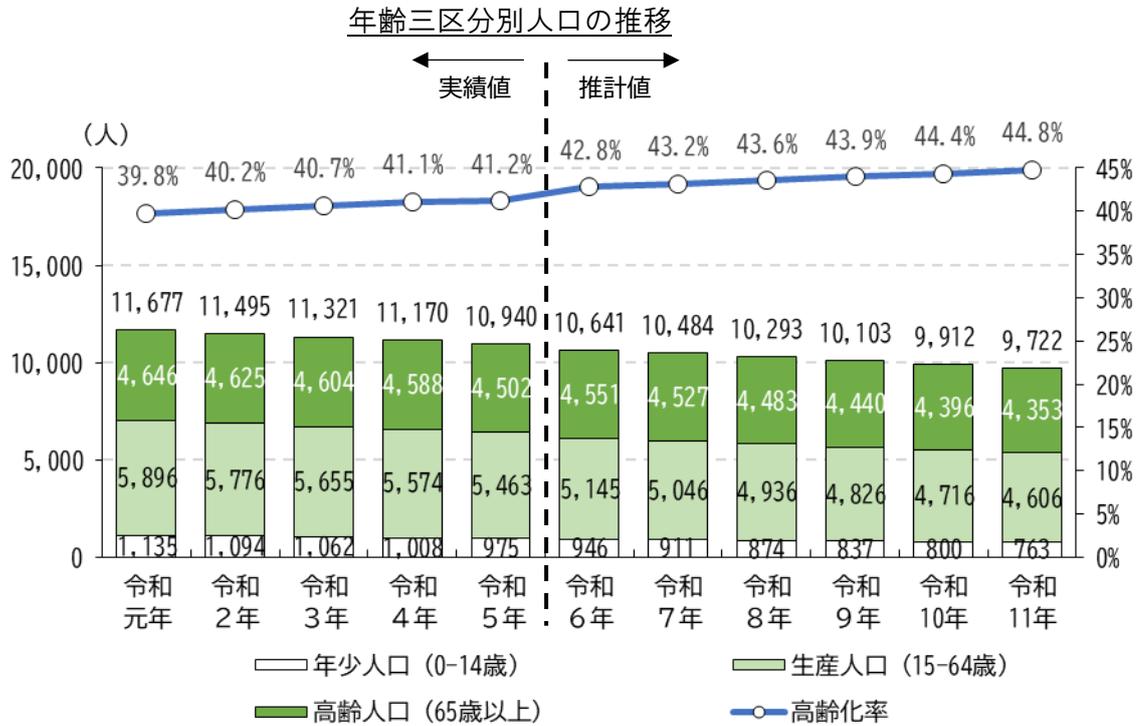
計画期間

障がい者基本計画は令和6年度から令和11年度までの6か年を第6次計画期間とし、制度改正等にあわせて必要な見直しを行います。

2 栗山町の障がい者の現状

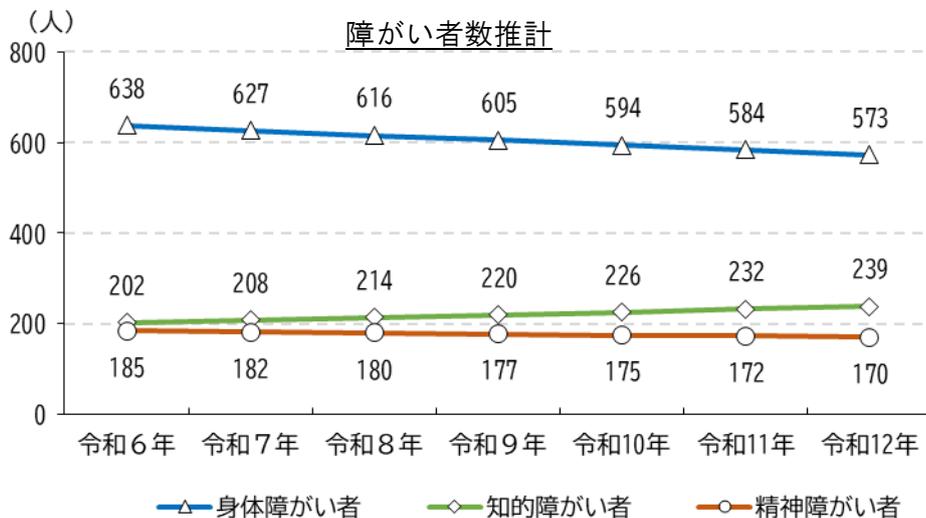
人口の推移と人口構成の動向

栗山町の人口は、令和5年10月1日現在で、10,940人となっており、減少が続いています。平成30年から5年間で、924人減少しており、高齢化率が40%を超えています。また、これまで増加してきた65歳以上の人口も減少に転じるなど、本格的な人口減少の段階に入ったと考えられます。



障がい者数推計

計画期間中の障がい者数の推計は以下の通りです。令和12年には身体障がい者は573人、知的障がい者は239人、精神障がい者は170人と見込まれます。



“共に生きる” 地域社会づくり

「北海道障がい者条例」の理念である「障がいのある人が当たり前で暮らせる地域は、誰にとっても暮らしやすい地域である」という考え方を尊重し、障がいの有無にかかわらず、誰もが住みなれた地域で、互いの人格や個性を尊重し合い、共に支え合い、生きがいを持って暮らせる地域社会の実現(=“共に生きる”地域社会づくり)を目指し、次に掲げる施策の柱に基づく取組を進めます。

施策推進の基本目標

1 地域支援体制の充実

総合的・専門的な相談支援体制の充実や、地域福祉の担い手育成、障がい者を支える人(ケアラー)の支援など、障がい者とその家族等が安心して地域で暮らせる支援体制づくりを進めます。

2 自立と社会参加の推進

障がい者が地域で生き生きと暮らせるよう、就労支援体制の充実や、福祉事業所の活動支援など、自立と社会参加に向けた取組を推進します。

3 強制的地域社会づくり

障がい者の権利擁護の推進や、障がいへの理解・配慮など、町民のこころを育む取組を推進します。また、居住環境や日常生活における支援サービスの充実など、暮らしの基盤づくりを進めます。

4 療育・教育の充実

早期療育に向けた見守り・相談支援体制や、療育支援体制の充実を図るなど、全ての子どもが自分らしく成長できる環境づくりを進めます。

5 障がい福祉サービス等の着実な展開

相談支援体制の充実や、指定サービス事業所の体制整備を支援するなど、各種法定サービスの着実な展開を推進します。

4 計画の施策体系

“共に生きる” 地域社会づくり

第2編 第6次障がい者基本計画

1 地域支援体制の充実

- (1) 相談支援体制の充実
- (2) 担い手(人材)の育成・支援
- (3) 関係団体の活動支援と連携強化
- (4) 障がい者を支える人(ケアラー)の支援

2 自立と社会参加の推進

- (1) 就労支援体制の充実
- (2) 福祉的就労の底上げ支援
- (3) 社会参加機会の提供

3 共生の地域社会づくり

- (1) 町民理解の促進
- (2) 権利擁護と意思決定支援
- (3) 住環境・日常生活支援の充実
- (4) 安全・安心の環境づくり
- (5) 適切な保健・医療の提供
- (6) 情報バリアフリーの推進

4 療育・教育の充実

- (1) 見守り・相談支援体制の充実
- (2) 療育支援体制の充実
- (3) 学齢期の教育支援体制の充実

第3編 第7次障がい福祉計画

1 指定障がい福祉サービス(成果指標と供給見込み量)

- (1) 訪問系サービス (2) 居住系サービス (3) 日中活動系サービス
- (4) 相談支援(計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援)

2 地域生活支援事業(成果指標と供給見込み量)

- (1) 必須事業(理解促進・啓発、移動支援、日常生活用具給付 など)
- (2) 任意事業(日中一時支援、展示・声の広報等発行 など)

第4編 第3次障がい児福祉計画

障がい児通所支援事業(成果指標と供給見込み量)

- (1) 児童発達支援 (2) 放課後等デイサービス (3) 保育所等訪問支援
- (4) 医療型児童発達支援 (5) 障害児相談支援

5 第7次障がい福祉計画

成果目標（令和8年度末の目標）

（1）福祉施設入所者の地域生活への移行（継続）

項目	目標値等	考え方
令和5年3月31日時点の入所者数	37人	—
【目標1】 目標年度(R8)の地域生活移行者数	2人	上記の施設入所者数のうち、令和8年度末において、6%相当数の方が、施設入所からグループホーム等の地域生活へ移行することを基本として、地域の実情を踏まえて設定する。
【目標2】 目標年度(R8)の減少見込数	1人	令和8年度末の施設入所者数が、上記の施設入所者数から1.6%相当減少することを基本として、地域の実情を踏まえて設定する。

（2）地域生活支援拠点等が有する機能の充実（継続）

項目	目標値等	考え方
地域生活支援拠点等の数	1箇所	「基幹相談支援センター」を町単独での設置を検討し、併せて拠点コーディネーターを配置し、相談支援・居住支援・人材育成支援等の機能を持つ、地域生活支援拠点の整備を進めます。
拠点コーディネーターの配置人数	1名	

（3）福祉施設から一般就労への移行等（継続）

①福祉施設から一般就労への移行者数（継続）

項目	目標値等	考え方
令和4年度(1年間)の一般就労移行者実績	0人	—
【目標】 目標年度(R8)までの年間一般就労移行者数	1人	令和4年度(1年間)の移行実績の1.27倍を基本として、地域の実情を踏まえて設定する。

②就労移行支援事業における一般就労への移行者数（継続）

項目	目標値等	考え方
令和4年度(1年間)の就労移行支援事業所移行者実績	2人	—
【目標】 目標年度(R8)までの年間事業所移行者数	2人	令和4年度(1年間)の移行実績の1.3倍を基本として、地域の実情を踏まえて設定する。

③就労継続支援事業における一般就労への移行者数（継続）

項目		目標値等	考え方
令和4年度(1年間)の就労継続支援事業所移行者実績	就労継続支援A型	0人	—
	就労継続支援B型	0人	—
【目標】 目標年度(R8)までの年間事業所移行者数	就労継続支援A型	1人	令和4年度の移行実績の1.29倍
	就労継続支援B型	1人	令和4年度の移行実績の1.28倍

④就労定着支援事業の利用者数（継続）

項目	目標値等	考え方
利用者数	1人 (70%)	就労移行支援事業等により一般就労に移行した人のうち、国等の方針である7割以上を目標に就労定着支援事業の利用者数を設定する。

(4) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築（継続）

項目	目標値等	考え方
保健・医療・福祉関係者等による協議の場の設置	圏域との連携により設置	精神障がいのある人が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう、保健・医療・福祉関係者等による協議の場を設置し、当事者を支える地域包括ケアシステムの構築を目指します。

(5) 相談支援体制の充実・強化等（継続）

項目	目標値等	考え方
総合的・専門的な相談支援及び地域の相談機関との連携強化	実施	基幹相談支援センターを中心に、障がいの種別や各種のニーズに対応できる総合的・専門的な相談支援の実施と、地域包括支援センターや民生委員・児童委員等との連携体制の強化を目指します。

(6) 障がい福祉サービスの質の向上（継続）

項目	目標値等	考え方
障がい福祉サービスに係る研修等への町職員の参加	2人	町職員が各種研修等に積極的に参加し、障害者総合支援法の具体的内容の理解を深め、障がい福祉サービス等の利用状況の把握・検証を行います。
サービス・相談支援従事者向け研修の実施	1回	障がい者自立支援協議会部会を設置し、個別事例の検討・協議を行い、各種制度の情報提供や、福祉サービス・相談支援従事者に研修の機会を提供します。

サービスの供給見込量

(1) 訪問系サービス

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
居宅介護	計画	人/月	10	11	12	9	9	9
		時間/月	65	70	75	43	41	39
	実績	人/月	12	14	9			
		時間/月	61	52	45			
サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
重度訪問介護	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
		時間/月	45	45	45	45	45	45
	実績	人/月	1	0	0			
		時間/月	379	0	0			
行動援護	計画	人/月	1	1	1	3	3	3
		時間/月	16	16	16	18	18	18
	実績	人/月	1	2	2			
		時間/月	2	8	9			
同行援護	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
		時間/月	16	16	16	17	17	17
	実績	人/月	1	1	1			
		時間/月	4	3	17			
同行援護重度障害者 等包括支援	計画	人/月	0	0	0	1	1	1
		時間/月	0	0	0	120	120	120
	実績	人/月	0	0	0			
		時間/月	0	0	0			

(2) 居住系サービス

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
共同生活援助 (グループホーム)	計画	人/月	57	59	61	73	77	82
	実績		57	63	69			
施設入所支援	計画	人/月	36	35	35	38	39	39
	実績		35	37	38			
自立生活援助	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
	実績		0	0	0			

(3) 日中活動系サービス

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
生活介護	計画	人/月	56	56	56	67	69	70
		日/月	1,176	1,176	1,176	1,376	1,406	1,437
	実績	人/月	58	63	66			
		日/月	1,199	1,287	1,347			
療養介護	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
	実績	人/月	1	1	1			
自立訓練 (機能訓練)	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
		日/月	10	10	10	10	10	10
	実績	人/月	0	0	0			
		日/月	0	0	0			
自立訓練 (機能訓練)	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
		日/月	10	10	10	10	10	10
	実績	人/月	0	0	0			
		日/月	0	0	0			

宿泊型自立訓練	計画	人/月	1	1	1	1	1	1
		日/月	30	30	30	30	30	30
	実績	人/月	2	2	1			
		日/月	51	56	30			
就労移行支援	計画	人/月	3	3	3	2	2	2
		日/月	66	66	66	20	20	20
	実績	人/月	1	2	0			
		日/月	4	4	0			
就労継続支援 (A型)	計画	人/月	8	9	10	10	11	12
		日/月	170	190	210	171	187	205
	実績	人/月	10	13	9			
		日/月	166	191	156			
就労継続支援 (B型)	計画	人/月	78	80	82	91	94	98
		日/月	1,560	1,600	1,640	1,650	1,691	1,732
	実績	人/月	78	89	88			
		日/月	1,456	1,460	1,610			
就労定着支援	計画	人/月	1	1	1	1	2	2
		日/月						
	実績	人/月	0	0	0			
		日/月						
	計画	人/月						
		日/月	10	12	15	13	13	13
	実績	人/月	0	2	4			
		日/月	0	10	20			

(4) 相談支援

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
計画相談支援	計画	実利用者	174	176	178	171	171	172
	実績	実利用者	172	171	170			
地域移行支援	計画	実利用者	1	1	1	1	1	1
	実績	実利用者	0	0	0			
地域定着支援	計画	実利用者	1	1	1	1	1	1
	実績	実利用者	1	1	0			



地域生活支援事業

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
理解促進研修・啓発事業	計画	実施回数	2	2	2	1	1	1
	実績		1	1	1			
自発的活動支援事業	計画	箇所/年	1	1	1	1	1	1
	実績		0	1	1			
相談支援事業 (一般・基幹相談)	計画	箇所/年	1	1	2	1	1	1
	実績		1	1	1			
成年後見制度利用支援 事業	計画	箇所/年	1	2	2	1	1	1
	実績		1	1	1			
成年後見制度法人後見 支援事業	計画	箇所/年	1	1	1	1	1	1
	実績		0	0	0			
意思疎通(コミュニケーション) 支援事業	計画	箇所/年	2	2	2	2	3	3
	実績		1	2	2			
移動支援事業	計画	実利用者	12	13	14	17	18	19
		時間/月	50	55	60	94	101	109
	実績	実利用者	12	18	16			
		時間/月	60	85	87			
地域活動支援センター	計画	箇所/月	1	1	1	1	1	1
		人/月	2	2	2	2	3	3
	実績	箇所/月	1	1	1			
		人/月	2	2	2			
日常生活用具給付事業	計画	人/年	40	41	42	53	57	61
		件数/年	165	167	169	186	192	199
	実績	人/年	40	36	50			
		件数/年	192	188	180			
手話通訳奉仕員養成講座 事業	計画	回数/年	1	1	1	1	1	1
		人数/年	10	5	5	10	10	10
	実績	回数/年	0	1	1			
		人数/年	0	6	9			
日中一時支援事業	計画	人/月	6	6	6	1	1	1
	実績		1	1	1			
新規 訪問入浴サービス事業	計画	人/月	-	-	-	0	1	1
	実績		-	-	-			
スポーツ・レクリエーション教 室開催等事業	計画	実施回数	1	1	1	1	1	1
	実績		0	0	1			
点字・声の広報等発行事業	計画	発行回数	12	12	12	12	12	12
	実績		12	12	12			
自動車運転免許取得・改造 費助成事業	計画	助成件数	1	1	1	1	1	1
	実績		1	0	0			

6 第3次障がい児福祉計画

成果目標（令和8年度末の目標）

障害児支援の提供体制の整備等（継続）

項目	町目標値	考え方
児童発達支援センターの設置数	圏域に1か所設置(広域)	道計画における目標のとおり、障がい福祉圏域(南空知)ごとに設置
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所の確保	圏域に1か所設置(広域)	道計画における目標のとおり、障がい福祉圏域(南空知)ごとに設置に協力
主に重症心身障がい児を支援する放課後等デイサービスの確保	圏域に1か所設置(広域)	道計画における目標のとおり、障がい福祉圏域(南空知)ごとに設置
医療的ケア児支援のための関係機関協議の場の設置及びコーディネーターの配置	設置	医療的ケアが必要な児童への支援等について、関係者による研修・協議の場を設けるとともに、関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置を検討します。

サービスの供給見込量

サービス名	単位		第6次計画			第7次計画		
			令和3年度	令和4年度	令和5年度(見込)	令和6年度	令和7年度	令和8年度
児童発達支援	計画	実利用者	36	37	38	155	180	208
	実績		112	144	134			
放課後等デイサービス	計画	実利用者	34	36	38	198	200	202
	実績		206	196	196			
保育所等訪問支援	計画	実利用者	5	5	5	3	3	2
	実績		4	4	3			
医療型児童発達支援	計画	実利用者	0	0	1	1	1	1
	実績		0	0	0			
障害児相談支援	計画	実利用者	67	68	69	76	79	83



難病（特定疾患）の用語解説

（１）国指定疾患

疾患名	概要・症状等
球脊髄性筋萎縮症	脳の一部や脊髄の運動神経細胞の障がいにより、発語をしたり、飲み込んだりするときを使う筋肉や舌の筋肉、さらには手足の筋肉が萎縮(やせること)する病気
筋萎縮性側索硬化症	筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かし、かつ運動をつかさどる神経(運動ニューロン)だけが障がいをうけ、脳から「手足を動かせ」という命令が伝わらなくなることにより、力が弱くなり、手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだんやせて力がなくなっていく病気。
進行性核上性麻痺	脳の中の大脳基底核、脳幹、小脳といった部位の神経細胞が減少し、転びやすくなったり、下方を見ることがしにくい、話にくい、飲み込みにくいといった症状がみられる疾患。
パーキンソン病関連疾患	四大症状は(1)安静時のふるえ、(2)筋強剛(筋固縮)、(3)動作緩慢、(4)姿勢反射障がいです。このほか(5)同時に二つの動作をする能力が低下し、(6)自由な速さのリズムが作れなくなる。など、動作が遅いのみならず、動きそのものが少なくなる。
シャルコー・マリー・トゥース病	一般的に四肢、特に下肢遠位部の筋力低下と感覚障害を示す疾患であるが、近年の原因遺伝子の解明に伴い中枢神経系の障害も含む多様な臨床症状が明らかとなってきている。まれに、四肢近位部優位の筋力低下・筋萎縮を示す例もある。自律神経障害が前面に出るタイプもある。
重症筋無力症	末梢神経と筋肉の接ぎ目(神経筋接合部)において、脳の命令によって神経側から遊離される神経伝達物質(アセチルコリン)の筋肉側の受け皿(アセチルコリン受容体)が自己抗体により攻撃される自己免疫疾患
多発性硬化症/視神経脊髄炎	中枢神経系の脱髄疾患の一つで、神経細胞から出る細い電線のような神経の線を被っている髄鞘が壊れて中の神経がむき出しになる病気。視神経と脊髄だけではなく、脳にも病変を呈する場合や、脊髄もしくは視神経だけに病変が出る場合など様々なパターンがある。
多系統萎縮症	<ul style="list-style-type: none"> ・線条体黒質変性症(筋固縮、無動(動作緩慢、動作の減少)、姿勢反射障がいなどのパーキンソニズムが中心で、安静時振戦は少ない。) ・オリブ橋小脳萎縮症(中年以降に発病する孤発性疾患で、遺伝性はない。小脳性運動失調が前景に現れ、経過とともにパーキンソニズム、自律神経症状を呈する。) ・シャイ・ドレガー症候群(自律神経症状が主要な症状であり、それに加えて小脳性運動失調、錐体外路症状としてのパーキンソン症状などを現わします。自律神経症状としては、起立性低血圧、発汗異常、排尿障がい、インポテンス、便秘などをきたす。初発症状としては、陰萎、排尿障がい、起立性低血圧など)
脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	歩行時のふらつきや、手の震え、ろれつが回らない等を症状とする神経の病気。動かすことは出来るのに、上手に動かすことが出来ないという症状で、主に後頭部の下側にある小脳の一部が病気になったときに現れる。
もやもや病(ウィリス動脈輪閉鎖症)	日本人に多発する原因不明の進行性脳血管閉塞症であり、脳血管撮影検査で両側の内頸動脈終末部に狭窄ないしは閉塞とその周囲に異常血管網を認める。無症状(偶然発見)のものから一過性ないしは固定性の神経症状を呈するものまで症状は軽重・多岐にわたる。
アミロイドーシス	アミロイドと呼ばれるナイロンに似た線維状の異常蛋白質が全身の様々な臓器に沈着し、機能障がいをおこす病気の総称で、複数の臓器にアミロイドが沈着する全身性のものと、ある臓器に限局してアミロイドが沈着する限局性のものに分けられる。
天疱瘡	自分の上皮細胞を接着させる分子に対する抗体により、皮膚や粘膜に水疱(みずぶくれ)やびらんを生じる自己免疫性水疱症。
膿疱性乾癬(汎発性)	「乾癬(かんせん)」という皮膚病の中で、発熱や皮膚の発赤などとともに「膿疱(のうほう～皮膚に膿がたまったもの)」がたくさん出現する病型を「膿疱性乾癬」と呼び、皮疹は体の一部(手足など)に限局する場合や、全身に出現することもあり、全身に出現する場合には「汎発性膿疱乾癬」と呼ばれ、症状が重くなる。
高安静脈炎	大動脈及びその主要分枝や肺動脈、冠動脈に炎症性壁肥厚をきたし、またその結果として狭窄、閉塞または拡張病変を来す原因不明の非特異的大型血管炎である。狭窄または閉塞を来した動脈の支配臓器に特有の虚血障害、あるいは逆に拡張病変による動脈瘤がその臨床病態の中心。
巨細胞性動脈炎	血管炎と呼ばれる病気のグループに含まれ、高齢の方に起こり、主に頭部の動脈がつまって症状を起こす、珍しい病気。

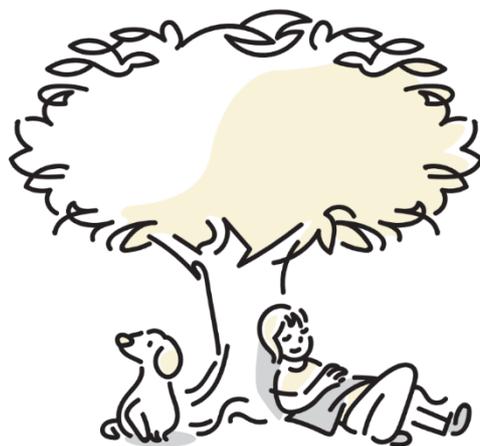
疾患名	概要・症状等
顕微鏡的多発血管炎	腎臓、肺、皮膚、神経などの臓器に分布する小型血管(顕微鏡で観察できる太さの細小動・静脈や毛細血管)の血管壁に炎症をおこし、出血したり血栓を形成したりするために、臓器・組織に血流障がいや壊死がおこり臓器機能が損なわれる病気。
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	先行症状として気管支炎喘息やアレルギー性鼻炎がみられ、末梢血好酸球増多を伴って血管炎を生じ、末梢神経炎、紫斑、消化管潰瘍、脳梗塞・脳出血・心筋梗塞・心外膜炎などの臨床症状を呈する疾患。
バージャー病	四肢の末梢血管に閉塞をきたす疾患で、その結果、四肢や指趾の虚血症状(血液が十分供給されないためにおこる組織の低酸素症状)が起こる病気で、手足の動脈が閉塞して、その結果虚血症状がおこる。
原発性抗リン脂質抗体症候群	血中に抗リン脂質抗体とよばれる自己抗体が存在し、さまざまな部位の動脈血栓症や静脈血栓症、習慣流産などの妊娠合併症をきたす疾患。
全身性エリテマトーデス	全身のさまざまな場所に、皮膚に狼に噛まれた痕のような赤い紅斑が出来、発熱、全身倦怠感などの炎症を思わせる症状と、関節、皮膚、内臓などのさまざまな症状が一度に、あるいは次々に多彩な症状を引き起こす。
皮膚筋炎/多発性筋炎	筋肉の炎症により、筋肉に力が入りにくくなったり、疲れやすくなったり、痛んだりする病気。手指の関節背側の表面ががさがさとして盛り上がった紅斑(ゴットロン丘疹)、肘関節や膝関節外側のがさがさした紅斑(ゴットロン徴候)、上眼瞼の腫れぼったい紅斑(ヘリオトロープ疹)などの特徴的な皮膚症状がみられたりする。皮膚や筋肉以外に肺に症状を起こしやすい。
強皮症	強皮症には全身性强皮症と限局性强皮症があり、全身性强皮症は皮膚や内臓が硬くなる変化(硬化あるいは線維化といいます)が特徴で、限局性强皮症は皮膚のみの病気で、内臓を侵さない病気で、手足の腫れやこわばりがみられたり、皮膚に色素異常などがみられる。
混合性結合組織病	全身性エリテマトーデス(SLE)様、強皮症様、多発性筋炎様の症状が混在し、かつ血清中に抗U1-RNP抗体が高値で検出される病気で、手足の蒼白化、しびれ、関節炎、皮膚の硬化、食道機能低下等がある。
シェーグレン症候群	涙腺と唾液腺を標的とする臓器特異的自己免疫疾患であり、全身の臓器病変を伴う全身性の自己免疫疾患である。
ベーチェット病	口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の4つの症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患。
特発性拡張型心筋症	心臓(特に左心室)の筋肉の収縮する能力が低下し、左心室が拡張してしまう病気。
肥大型心筋症	心肥大をおこす原因となる高血圧や弁膜症などの病気がないにもかかわらず、心筋の肥大(通常左室、ときに右室の肥大)が起こる病気で、左室心筋の異常な肥大に伴って生じる。
再生不良性貧血	血液中の白血球、赤血球、血小板のすべてが減少する疾患で、この状態を汎血球減少症と呼ぶ。血球は骨髄で作られるが、骨髄組織は脂肪に置き換わることが多く、血球が作られないために貧血症状、感染による発熱、出血などが起こる。
発作性夜間ヘモグロビン尿症	赤血球が血管内で異常に早く破壊されておこる貧血で、早朝のヘモグロビン尿(コーラ色)を特徴とします。血液中の白血球、赤血球、血小板のすべてが減少する再生不良性貧血という疾患や、できた血球の数が少ないだけでなく、質も悪くなる骨髄異形成症候群という疾患と密接に関係しており、時に合併・相互移行する。
特発性血小板減少性紫斑病	血小板減少を来す他の明らかな病気や薬剤の服薬がなく血小板数が減少し、出血しやすくなる病気で、出血が止まりにくくなる。病気が起こってから6ヶ月以内に血小板数が正常に回復する「急性型」は小児に多く、6ヶ月以上血小板減少が持続する「慢性型」は成人に多い傾向にある。
原発性免疫不全症候群	先天的に免疫系のいずれかの部分に欠陥がある疾患の総称で、感染に対する抵抗力が低下する。重症感染のため重篤な肺炎、中耳炎、膿瘍、髄膜炎などを繰り返し、時に生命の危険を生じることがあり、中耳炎の反復による難聴、肺感染の反復により気管支拡張症などの後遺症を残すこともある。
IgA腎症	検尿で血尿や蛋白尿を認め、腎臓の糸球体に免疫グロブリンのIgAという蛋白が沈着する病気で多くは慢性の経過をたどります。進行すると腎機能が低下し、高血圧の合併や腎不全に伴う症状がおこります。
多発性嚢胞腎	両方の腎臓にできた多発性の嚢胞が徐々に大きくなり、進行性に腎機能が低下する、頻度の高い遺伝性腎疾患です。

疾患名	概要・症状等
黄色人体骨化症	脊髄(神経)の後ろにある黄色靭帯という靭帯が、骨化してだんだん大きくなってしまい神経を圧迫して、おもに足の麻痺を起こす病気で、足のしびれや、歩きにくさ、膀胱の働きが悪くなる。
後縦靭帯骨化症	脊椎椎体の後縁を上下に連結し、脊柱を縦走する後縦靭帯が骨化し増大した結果、脊髄の入っている脊柱管が狭くなり、脊髄や脊髄から分枝する神経根が圧迫されて知覚障がいや運動障がい等の神経障がいを引き起こす病気。骨化する脊椎のレベルによってそれぞれ頸椎後縦靭帯骨化症、胸椎後縦靭帯骨化症、腰椎後縦靭帯骨化症と呼ばれる。
特発性大腿骨頭壊死症	大腿骨頭の一部が、血流の低下により壊死(骨が腐った状態ではなく、血が通わなくなつて骨組織が死んだ状態)に陥った状態。骨壊死が起こること(発生)と、痛みが出現すること(発症)、には時間的に差があり、骨壊死があるだけでは痛みはない。骨壊死に陥った部分が潰れることにより、痛みが出現するため、骨壊死はあっても、生涯にわたり痛みをきたさないこともある。
下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	額、鼻やあご、手足など体の先端が肥大する病気です。思春期までに発症すると巨人症になります。頭痛や高血圧、糖尿病、いびき、多汗などの症状を伴います。
下垂体前葉機能低下症	下垂体から分泌されるADH、ACTH、TSH、GH、LH、FSH、PRLの単独ないし複数のホルモン分泌障害あるいは分泌亢進により、主として末梢ホルモン欠乏あるいは過剰による多彩な症状を呈する疾患である。
アジソン病	腎臓に付随する“副腎”の機能が低下し、副腎皮質ホルモンと呼ばれるホルモンが不足することにより、さまざまな症状がみられる病気。副腎皮質からのホルモン分泌が低下する病気は“原発性副腎皮質機能低下症”と呼ばれ、このうち後天的なものをアジソン病と呼ぶ。
サルコイドーシス	全身のいろいろな臓器(頻度が高いのは両側肺門リンパ節、肺、眼、皮膚、唾液腺、心臓、神経、筋肉など)に、結核によく似た病巣を作る。罹患する臓器により、目のかすみ、視力低下、咳、呼吸苦、色々な皮膚の発疹、不整脈など、肉芽腫が出来た臓器の障がいとして出現する。
特発性間質性肺炎	さまざまな原因から肺胞壁に炎症をおこし、壁が厚く硬くなり(線維化)、呼吸をしてもガス交換ができにくくなる病気。肺病変ができていても多くは無症状で、乾性咳嗽と呼ばれる痰を伴わない空咳が初期症状。
網膜色素変性症	網膜に異常をきたす遺伝性、進行性の病気で、暗いところで物が見えにくくなったり(とりめ、夜盲)、視野が狭くなったりするような症状が最初に起こり、病気の進行とともに視力が低下する。
原発性胆汁性胆管炎	肝臓の中の細い胆管が壊れる病気で、胆汁の流れが通常よりも少し滞ってしまい、血液検査をするとALPやγ-GTPなどの胆道系酵素が通常よりも高い数値になる。
自己免疫性肝炎	慢性に経過する肝炎で肝細胞が障がいされます(血液検査にてASTやALTが上昇します)。通常は自覚症状がないが、急性肝炎様に発症する際は、倦怠感、皮膚の黄染、食欲不振などの症状がみられる。
クローン病	主として若年者にみられ、口腔にはじまり肛門にいたるまでの消化管のどの部位にも炎症や潰瘍(粘膜が欠損すること)が起こりえますが、小腸と大腸を中心として特に小腸末端部が好発部位。非連続性の病変(病変と病変の間に正常部分が存在すること)を特徴とし、これらの病変により腹痛や下痢、血便、体重減少などが生じる。
潰瘍性大腸炎	大腸の粘膜(最も内側の層)にびらんや潰瘍ができる大腸の炎症性疾患。特徴的な症状としては、下血を伴う又は伴わない下痢とよく起こる腹痛、病変は直腸から連続的に、そして上行性(口側)に広がる性質があり、最大で直腸から結腸全体に広がる。
スタージ・ウェーバー症候群	脳の表面を細かな血管が覆う軟膜血管腫と顔面の赤い痣、眼圧の上昇を特徴とする生まれつきの病気です。てんかん、発達障がい、運動麻痺、視力障がいなどの問題が生じる。
心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	右心室の本来の出口である肺動脈弁が完全に閉じているかわりに、大きな心室中隔欠損をまたぐように大動脈が左右両心室から出ている先天性心疾患。
抗糸球体基底膜腎炎	腎臓のろ過装置である糸球体に炎症がおこる病気を糸球体腎炎とよび、蛋白尿や血尿が出現する。糸球体腎炎のうちで抗基底膜抗体が糸球体に沈着することで、急速に腎機能が低下する病気。進行が早く、早期に発見するのが難しい病気。
一次性ネフローゼ症候群	尿に蛋白がたくさん出てしまうために、血液中の蛋白が減り(低蛋白血症)、その結果、むくみ(浮腫)が起こる疾患。糖尿病などの全身性疾患が原因でネフローゼ症候群をきたすものを二次性ネフローゼ症候群、明確な原因がないものを一次性ネフローゼ症候群と言う。

疾患名	概要・症状等
肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	肺胞に蛋白様物質が貯留する病気。症状で最も多いのが、労作時呼吸困難(39%)、次いで呼吸困難と咳の合併(11%)、咳のみ(10%)、呼吸困難と咳と痰(2%)である。まれな症状としては、体重減少や発熱などがみられる。
ビタミンD抵抗性くる病/ 骨軟化症	別名で低リン血症性くる病・骨軟化症と呼ばれる疾患である。このうち、成長軟骨帯閉鎖以前に発症するものをくる病と呼んでいる。くる病・骨軟化症は、骨石灰化障がいの特徴とする疾患であり、ビタミンD抵抗性くる病では、O脚やX脚などの骨変形、成長障がい、脊柱の湾曲などが生じる。
強直性脊椎炎	主に脊椎・骨盤(仙腸関節)及び四肢の大関節を侵す慢性進行性の炎症性疾患である。多くが30歳前の若年者に発症し、頸～背～腰殿部、胸部、さらには股、膝、肩関節など全身広範囲に炎症性疼痛が拡がり、次第に各部位の拘縮(運動制限)や強直(運動性消失)を生じる。このため、身体的のみならず心理的・社会的にもQOLの著しい低下を招き、特に若年者では就学・就労の大きな障壁となる。

(2) 道単独指定疾患

患名	概要・症状等
シェーグレン症候群	免疫のバランスが崩れることによって、涙腺と唾液腺を標的とする臓器特異的自己免疫疾患で、全身性の臓器病変を伴う全身性の自己免疫疾患でもある。
自己免疫性肝炎	免疫の異常が原因で体内で作られた自己抗体によって肝臓の働きが悪くなる病気で、血液検査では肝臓の細胞が破壊される程度を表すASTやALTが上昇する。中年以降の女性に発症することが多い。
突発性難聴	生来健康で耳の病気を経験したことのない人が、明らかな原因もなく、あるとき突然に通常一側の耳が聞こえなくなる病気。
難治性肝炎	B型、C型などの肝炎ウイルスの持続的な感染に伴う肝炎、肝硬変と考えられ、ウイルスの完全な除去は困難。
ステロイドホルモン産生異常症	副腎皮質ホルモンのうち、糖質ステロイドの分泌過剰によって引き起こされる症候群で、下垂体性、副腎性、異所性を区分する。女性に多く、20歳から45歳に多い。
特発性間質性肺炎(特例)	「呼吸」は吸った空気を、気道を介して肺の奥にある「肺胞」と呼ばれる部屋に運び、肺胞の薄い壁の中を流れる毛細血管中の赤血球に山荘を与えると同時に、二酸化炭素を取り出すガス交換をしています。間質性肺炎は、様々な原因からこの薄い肺胞壁に炎症をおこし、壁が厚く硬くなり、呼吸をしてもガス交換ができにくくなる病気。原因を特定できない間質性肺炎を「特発性間質性肺炎」という。



企画・編集
栗山町 福祉課 福祉・子育て担当

〒069-1512
北海道夕張郡栗山町松風3丁目 252 番地
TEL:0123-73-2222(直通)
<https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/>